

# 平成23年度 学校自己評価システムシート ( 県立上尾橋高等学校 )

目指す学校像 **地域に根ざし、生徒一人ひとりを伸ばし、社会に貢献できる人材を育成する。**

- 重点目標
- 1 基本的生活習慣を確立し、規律意識を高める。
  - 2 基礎学力の向上を図り、生徒の資質・能力を高める。
  - 3 進路指導の充実により、生徒の自己実現を図る。
  - 4 地域に根ざし、信頼される開かれた学校づくりを進める。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	12名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標					年度評価(1月10日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>さらに基本的生活習慣を確立するため、迅速な生徒把握、情報共有、的確な生徒指導、家庭との連携を進める必要がある。</li> <li>日常の指導に加え、体験的活動を通して、社会の一員としての生きた規範意識を身につけさせ、自己的的確な判断能力を育てる必要がある。</li> <li>家庭・地域との連携を強化し、生徒が自分の存在を意義あるものとして捉えられるよう指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的生活習慣の確立</li> <li>○規律意識の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる機会に保護者への基本的生活習慣の重要性、規範意識の向上を連絡し、連携を強化する。</li> <li>生徒への指導、家庭への連携を迅速に行うため生徒把握・情報共有を進める。</li> <li>指導のスマールステップ化を進める。</li> <li>地域からの情報にも迅速に対応する。</li> <li>生徒会活動等で、生徒が自主的に学校環境の向上を考える機会を設ける。</li> <li>学校行事等を通して、集団行動のあり方を理解させる。</li> <li>服装頭髪、登下校、遅刻防止指導等の徹底。家庭、PTA、地域との連携。</li> <li>社会人基準の規律意識の啓発、定着。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻、欠席、早退の減少。</li> <li>学校行事、考査など、けじめある生活指導に改善強化できたか。</li> <li>PTAと連携した指導を実施したか。</li> <li>服装規程の見直しを通して、規律意識を引き出す機会を設けたか。</li> <li>スマールステップ指導をしたか。</li> <li>生徒指導案件は減少したか。</li> <li>学校行事等に生徒が主体的に関わる環境づくりを進めたか。</li> <li>生徒会や委員会は活性化したか。</li> <li>保護者への連絡が徹底されたか。</li> <li>体験ボランティア活動の実施状況。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活委員会生徒参加の立哨指導を実施。延べ90名の生徒が参加。遅刻総数19.1%減(11月末)、遅刻指導者数約5%の減少。・生徒指導案件約50%減。</li> <li>生徒会とともにセーター等の服装規程を検討。運用の見直しを図るとともに、規定を周知した。</li> <li>文化祭の生徒会新企画の実施。強歩大会のコース改善。東北支援うちわ募金等、生徒会自律性向上。</li> <li>PTA・後援会を含む学校全体で東北支援に取り組む。現地へ生徒派遣しての支援活動実施。</li> <li>クールビズ対応の実施。夏服を5月～10月に変更。</li> <li>夏の節電活動。約30%の節電を実現。</li> <li>PTA、警察署と連携した登下校指導の実施。</li> <li>部活、補習の活性化のため、NO会議DAYを設定。</li> <li>ポスター掲示による学食使用規定の啓発活動。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭との連携・生徒の自律性向上の取組を継続・強化する。具体的には、今年度取り組んだ ①生徒会活動の活性化・自律化。</li> <li>②PTA・諸機関との連携強化。</li> <li>③生徒の活動情報の積極的な発信。</li> <li>④生徒・保護者の行事等への参画意識の啓発をさらに進める。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に対する姿勢は、大幅な改善が見られる。授業規律の確立が、学力向上・生活習慣改善・安全な環境作り等の基礎との共通認識がある。</li> <li>授業規律の確立のために、家庭との連携をさらに深める必要がある。</li> <li>学習指導のスマールステップ化をすすめ、生徒に達成感を与えられるようさらに工夫していく必要がある。</li> <li>生徒が積極的に学習に取り組み自己育成を進めるために、授業改善を要する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業規律の確立</li> <li>○学力向上・個性伸張のための授業改善、多様な教育活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャイム着席・チャイム始業の習慣化。</li> <li>保護者への具体的な情報発信。</li> <li>家庭と連携した指導体制の確立。</li> <li>授業公開の拡充。</li> <li>授業アンケートの実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャイム着席は習慣化したか。</li> <li>保護者宛通知等に改善を加えたか。</li> <li>保護者・地域の来校機会の拡充。</li> <li>授業公開日を年間20日以上設定し、参加者を拡充できたか。</li> <li>授業公開の趣旨を生徒に周知し、授業規律向上意識を啓発したか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SHR時等、各学年にて日常的な基礎学習の実施。</li> <li>公開授業日は合計20日。・中途退学者69.2%減少</li> <li>チャイム着席の定着度、生徒の実感94.3%、指導体制定着度94.2%、生徒授業満足度91.2%、教員の熱意を感じる生徒92.9%(生徒調査より)</li> <li>SPP参加。資生堂、女子栄養大学と連携し、化学分野の研修、パネル発表。</li> <li>東京芸術大学との連携。科学部が優良賞。</li> <li>県英語スピーチコンテスト第3位。5年連続入賞。</li> <li>考査前7日間の部活動を休止し、補習重点期間に。</li> <li>1学年にて教科担と学年団の情報共有化を推進。</li> <li>1学年考査上位者・皆勤賞を発表。向上心の啓発。</li> <li>人権作文、県最優秀賞受賞。・全商英語検定3級、日本語能力検定等の新規資格の取得拡大。</li> <li>成績不振者6.2%減、欠点延べ数16%減、出席不良者17.9%減、成績優良者43.1%増。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>新教育課程の編成に伴い、「ブラッシュアップ」が導入される。基礎基本の徹底が、生徒の興味・自信・向上心の礎となり、資格取得や進路実現等の成果となる学習指導を充実させる。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>分掌と学年が連携し就職希望者内定率100%を維持した。「進路実現100%」が全職員の命題として共有され、生徒の進路意識向上等、きめ細やかな組織的取組が進められている。</li> <li>明確な進路意識を育てるために、各段階のキャリア教育の位置づけを明確にする必要がある。</li> <li>保護者とも情報を共有し、連携を強化する。</li> <li>進路実現のために学力の向上についての取り組みが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○夢を実現させる進路指導の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識と体験の両面から職業意識、目的意識の明確化を進める。</li> <li>進路ガイダンス機能の充実。</li> <li>個別進路相談の充実。</li> <li>生徒の自己理解と進路研究の促進。</li> <li>保護者対象の進路意識啓発事業の推進。</li> <li>保護者への積極的な情報発信。進路意識を啓発する活動に取り組む。</li> <li>進路ガイダンスを体系的に実施するとともに、キャリア教育の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職希望者内定率は100%を維持できたか。</li> <li>進路ガイダンス等の保護者参加機会の拡充と工夫を進めたか。</li> <li>進路情報の積極的な発信をしたか。</li> <li>自己理解と進路研究のための取組を進めたか。</li> <li>職員間の情報共有の工夫改善。</li> <li>キャリア教育を改善したか。</li> <li>体験活動を進路指導に活かす工夫をしたか。</li> <li>進路未定者は減少したか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校紹介での就職内定率は評価時点で約92%。残りの生徒も正社員での就職を目指して、合同面接会を活用して、就職活動を進めている。</li> <li>県の労働局主催の就職ガイダンスを校内実施。面接のマナーや進路意識が向上した。</li> <li>全教員協力のもと面接練習回数を増やした。厳しい中でも昨年同時期より内定率10ポイント向上。</li> <li>1・2年生の進路講話・ガイダンスの回数を増加。</li> <li>選択科目説明会でも進路を見通した指導を実施。</li> <li>各学期末に進路ガイダンスの日を設定し、全学年で進路意識の涵養に努めた。</li> <li>1・2年生3学期に実力テストの実施を計画。進学に向け、早期からの実力の錬成に向けて指導。</li> <li>教員向け進路環境研修会を3学期に実施の方向。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>年々厳しくなる進路実現であるが、来年度も就職内定率100%を堅持するために、個に応じたきめ細かい指導を継続する。社会の現状に対して高校時代に行うべき事を理解させ、保護者の理解を得ながらガイダンス機能を強化する。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域、保護者に向け、具体的な情報発信を行っている。</li> <li>保護者来校の機会を拡充するとともに、アンケートなど地域保護者の声を集約する工夫が必要である。</li> <li>日頃から地域との交流活動の充実や自己の生き方在り方について考察できる活動の場を提供する。</li> <li>校内の情報共有をさらに進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○機会を捉えたきめ細かい情報発信</li> <li>○生徒・保護者・地域の要望・考えを把握し、共有できる組織づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育活動の趣旨等の情報発信の拡充。</li> <li>校内への情報発信の拡充を進める。</li> <li>教職員間の情報共有の促進。</li> <li>学校説明会・中学校訪問時のPR内容方法の再検討。</li> <li>保護者アンケートの実施と検証。</li> <li>保護者の来校機会の拡充。</li> <li>教育活動の趣旨等の情報発信の拡充。</li> <li>生徒の活動が見える発信方法の研究。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分掌、学年、学級等の機を捉えた情報発信の実施。</li> <li>保護者等への情報提供の方法・内容等の拡充。</li> <li>学校説明会参加者の増加。</li> <li>入試倍率の維持。</li> <li>行事等の保護者来校者数の増加。</li> <li>校内の情報共有化は進んだか。</li> <li>HP掲示板による情報発信。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動新聞の発行。生徒相互の情報共有化。</li> <li>HPに学校説明会参加者の感想を即時UP。教員の情報共有とともに、地域にPRを行う。</li> <li>文化祭来校者数、昨年比45.9%の増加。</li> <li>学校説明会参加者、昨年比約20%の増加。</li> <li>学年保護者会の実施。保護者との情報共有化推進。</li> <li>中学校訪問の報告をまとめ、情報共有化を推進。</li> <li>東北支援活動に伴う迅速な情報発信。PTA、後援会・学校の情報共有と連携強化。</li> <li>文化祭等保護者通知を更新。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学校生活が見える情報発信に努める。行事を通しての生徒の声やアンケート、表彰や活動報告を共有し、生徒相互の向上心を啓発する。</li> </ul>

